

# 南青協便り第216号



南米産業開発青年隊協会会報 2022年08月08日発行

Boletim n.216 Seinentai do Brasil : Edição 08 de agosto de 2022

Iremos ao Templo para rezar aos falecidos em 18/set., leiam Pág.06  
9月18日、円光寺での慰霊祭に参列しましょう。5頁第4項をご覧ください



6月28日、鳴きながら飛ぶ白い目のインコ (PERIQUITO DE OLHOS BRANCOS)



S・M・アルカンジヨ会館前庭で木に止まった白い目のインコ (3頁にも写真)

# 目次(第 216 号) ÍNDICE (n. 216)

- 一、Fotos da Capa 表紙写真：  
Acima : Os periquitos de olhos brancos voam cantando alto.  
Abaixo : Os periquitos de olhos brancos pousados na árvore.
- 上 : 鳴きながら飛ぶ白い目のインコ。実際の鳴き声は「ギュグ、ギュグ、ギュグ」ないし「ガギャ、ガギャ、ガギャ」と聞こえます。
- 下 : S・M・アルカンジョ会館前庭で、木に止まった白い目のインコ ..... 1
- 一、Índice 目次 ..... 2
- 一、空を飛ぶ白い目のインコ、大群の約 7 割です。この品種は緑色の羽で(一部に橙色の羽入りの鳥もいて)、くちばしが白く綺麗です。  
表紙を含めサン・ミゲル・アルカンジョ会館前庭にて 6 月 28 日撮影.. 3
- 一、6 月の例会報告、7 月の例会報告 会長 渡辺進 .... 4~6
- 一、Haverá Cerimónia do Sufrágio em Templo Enko-ji ..... 6
- 一、長澤亮太隊長の色紙 ..... 7
- 一、ガタパラ移住地入植 60 周年祭に参加して 渡辺進 ..... 8
- 一、7 月 9 日、ガタパラ移住地 60 周年記念祭が開催 盆子原国彦 ..... 9
- 一、【会計報告】5 月分、6 月分 サンパウロ 8 期 長田譽歳 .... 10~11
- 一、松井英俊さん(9 期 243 番)が逝去されました ブラジル日報 .... 12
- 一、松井さんを偲んで ジュンジアイー 9 期 荒木昭次郎 .... 13
- 一、自分史 (35) ポルトガル 10 期 岡井よししげ ... 14~19
- 一、【余白に写真】熱弁をふるう北田隆俊さん ..... 19
- 一、ブラジルは法治国家にあらず サンパウロ 9 期 貝田定夫 ... 20~22
- 一、世論調査は信用出来るのか サンパウロ 9 期 貝田定夫 ... 23~24
- 一、菊池義治さん(5 期 89 番)がパウリスタ賞受賞 ブラジル日報  
【備考】このブラジル日報の記事の一部は横書きにしました。 .... 25
- 一、白昼の凶弾 フォス・ド・イグアスー 単独 齋藤信夫 .... 26~27
- 一、イグアスー便り フォス・ド・イグアスー 単独 齋藤信夫 .... 27~30
- 一、富士宮東高校のグラウンド整地工事について  
ジュンジアイー 9 期 荒木昭次郎 ... 31~32
- 一、イースター島見聞録 広島県 6 期 三戸伸晃 ... 32~40
- 一、近況 福岡県太宰府市 0B 光森徳雄 ... 41~42
- 一、安倍晋三元総理大臣を偲んで ソロカーバ 8 期 早川量道 ... 43~44
- 一、ピンチ・ヒッター。青年隊員になる。私の金婚式  
サンパウロ 8 期 長田譽歳 ... 45~52
- 一、金婚式の別写真 S・ミゲル・アルカンジョ 8 期 志方進 ..... 53
- 一、【昔の写真】8 期生パラナ訓練所終了記念写真、同日の別写真.. 54~55
- 一、【編集委員】【名簿訂正】【お願い、お知らせ】【編集後記】 ... 56

空を飛ぶ白い目のインコ、大群の約7割です。この種は緑色の羽で(一部に橙色の羽入りの鳥もいて)、くちばしが白く綺麗です。



下の写真の左側の2羽には少量の橙色の羽が見えます。



表紙を含めサン・ミゲル・アルカンジョ会館前庭にて6月28日撮影 ◆

## 6月の例会報告

6月18日(土)に月例会が開かれました。

会長 渡辺進

1) 6月の会計は承認されました。

2) 7月9日(土)のガタパラ60周年大会には、盆子原さんと渡辺が出席する。鈴木源治さんは山形県人代表として出席されるそうです。

3) 土木工学を勉強している青年隊OBのお孫さんが、日本で実習・研修をしたいと会員OBに相談し、その話を例会でしたところ、それは素晴らしいので、ぜひ行って欲しいし皆で応援しようという事になりました。

このような事はこれからもありそうな気がします。しかし、残念ながらこの方は御家族と相談した結果、今回は中止すると決定して、その連絡を戴きました。またの機会にぜひ行って欲しいと思います。

4) 時間に余裕があるときに、日本のOB会長と実習研修の件を、話し合ってみようと思います。

5) 7月の例会は16日(土)に開催予定。

【備考】変更して7月23日に(土)開催しました。



主席者は左から小山さん、渡辺、盆子原さん、長田さんでした。 ◆

## 7月の例会報告

7月23日(土)、月例会が山形県人会館で開かれ、次のことが話し合われました。

1) 6月の会計は承認されました。

2) 7月16日(土)、ガタパラ入植60周年記念大会に、鈴木さん、小山さん、盆小原さん、渡辺が出席しました。お祝いは300レアイスでした。

3) 8月20日(土) 朝10時より円光寺慰霊碑清掃、現地集合。弁当は一括で買ってもらって、後で個人負担。飲み物各自持参。参加予定は、曾我さん、長田さん、小山さん、渡辺。

4) 9月18日(日) 朝10時より円光寺において慰霊祭。

昼食は一品持ち寄り。

読経はマルコスさんをお願いしました。お礼は1300レアイスです。

乗合いバスはメトロサウージ駅から8時出発。各自負担額50レアイス。

乗合いバスの予約は曾我さんの携帯電話(11)97120-0863まで。

5) ある先輩のお孫さんが日本に研修に行きたいという希望がある、と言う事は以前報告しました。そのことは時期そうしようと言う事で何年か先になりそうです。がこの事は、老いたとはいえ我々南米産業開発青年にとって非常に嬉しい明るい話題であると思いました。

それで日本のOB会会長の鈴木さんにこの旨連絡したところ、非常に前向きなお返事を戴きました。

先ず、お孫さんたちが何をしたいのか、日本の何を知りたいのか、どのような勉強をしたいのか、などの具体的目標をハッキリさせ、鈴木会長に伝えて日本の仲間たちの引き受け手を当たってもらう。

このようにブラジル側からある程度の具体的な意見をまとめてみたいと思います。

このようなお孫さんをお持ちの先輩方をお願いします。孫たちと話し合っ  
て意見を聞いてみてもらえますか。

難しく考える必要はないと思います。このことで孫が日本語の勉強を始める  
かもしれません。土木関連と決め付ける必要もありません。おじいちゃんの  
生まれた国を知りたい。これも立派な研修理由ですね。

ご連絡をお待ちします。

x ————— x ————— x ————— x ————— x

Haverá a Cerimónia do Sufrágio em Templo Enko-ji,  
conforme abaixo mencionado.

- 1). Quem participa deve levar o almoço à forma de ben-to.
- 2). O ónibus partirá as 8 horas da rua perto da estação metrô de Saúde e cada um deve pagar R\$50,00
- 3). Quem pretende ir de ónibus a contratar, deve inscrever com o Sr. Soga pala ligação telefónica ao número (11) 97120-0863.

Obs. A sutra de budismo será lida pelo pastor Marcos,  
e custará R\$1.300,00 incluindo custos da viagem etc.



ながさわ りょう た たいちょう しきし

# 長澤亮太隊長の色紙

サン・ミゲル・アルカンジョ市で文協の

会長などで活躍された神取忠氏(コチア青年)の遺品にありましたので掲載いたします。色紙の実物は横24センチ、縦27センチです。



【備考】色紙の実物の縁は全体が金色です。

## ガタパラ移住地入植60周年祭に参加して 渡辺進

2022年7月9日にガタパラ移住地入植60周年祭に出席してきました。8期生の小島忠雄さんご夫婦に出迎えて貰いました。

ご夫婦はとてもお元気でした。南米産業開発青年隊からは鈴木源治さん、盆小原国彦さん、小山徳さんと渡辺がサンパウロから出席しました。

朝10時から慰霊祭、続いて60周年式典。ジャイカを始め各都道府県人会、さらに多くのニッケイの団体が出席した大変盛大な式典でした。

そのあと、皆さんで昼食をご馳走になり、和気あいあいの楽しいひと時をすごしました。天候に恵まれ気温が上がってきたので、冷たいビールがとっても美味しかったです。

さらに、ガタパラの特産物や農産物の展示、日本語学校生徒の勉強の成果の習字や絵画などとても楽しく拝見しました。

私の感想は、コロナ禍で2年間開催できなかった入植祭でしたが、それを取り戻したような元気な60周年祭だったと思いました。

関係者の皆様本当にあらためて敬意を表します。



左から小島夫妻、小山、渡辺、鈴木、盆子原（敬称略） ◆

# 7月9日、グアタパラ移住地60周年記念祭が 開催されました

サンパウロ 6期 盆子原国彦



挨拶する渡辺進会長



左からガタパラ在住の小嶋夫人と8期生小嶋忠雄氏、8期生小山徳氏、  
渡辺進会長、6期生鈴木源治氏、6期生盆子原国彦。

サンパウロからは4名が参加しました。



南青協月間会計報告(5月分)

2022年5月31日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	4月よりの繰越分			32.917,37
21/Mai	山形県人会月例会 Aluguel	120,00		
26/Mai	年会費 8期小山徳氏(227)		200,00	
31/Mai	年会費 4期馬渡一利氏(81)		200,00	
	Rendimento		214,37	
		120,00	614,37	33.411,74

Bradesco の支店番号と口座番号		Agência 1480
05 /Jun /2022		Conta 33226-7
Extrato Conta Corrente		Takatoshi Osada
Takatoshi Osada		Susumu Watanabe
Susumu Watanabe		CPF 698.506.588-00
Agência 1480		Cheque の送り先
Conta 0033226-7		Takatoshi Osada
		Rua Rishin Matsuda,467
		São Paulo - SP
		CEP 04371-000
	Saldo	31.411,74



# 南青協月間会計報告(6月分)

2022年6月30日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	5月よりの繰越分			33.411,74
09/Jun	会報 215 号 Copia	1.224,00		
09/Jun	会報 215 号 Correio	669,85		
18/Jun	山形県人会会館月例会 Aluguel	120,00		
	Rendimento		217,36	
	<b>Total</b>	<b>2.013,85</b>		<b>31.615,25</b>

Bradesco の支店番号と口座番号		Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada Susumu Watanabe CPF 698.506.588-00
05/Julho/2022 Extrato Conta Corrente		Cheque の送り先 Takatoshi Osada Rua Rishin Matsuda,467 São Paulo - SP CEP 04371-000
Takatoshi Osada Susumu Watanabe Agência 1480 Conta 0033226-7	<b>SALDO</b>	<b>31.615,25</b>

7月 8日 7期 (n. 188) 鈴木貞男氏 会費入金  
 7月 12日 9期 (n. 245) 荒木昭次郎氏 会費入金  
 7月 13日 8期 (n. 222) 野末郁雄氏 会費入金  
 7月 13日 8期 (n. 236) 小島忠雄氏 会費入金  
 7月 15日 9期 (n. 259) 貝田定夫氏 会費入金

この5名の方々の会費入金は7月の会計報告に記載されます。  
 有難う御座いました。



## 松井英俊さん(9期243番)が逝去されました

ブラジル日報 2022年7月6日号から転載

### 訃報 松井英俊氏

南米産業開発青年隊9期生でスザノ市在住の松井英俊（まつい・ひでとし）さんが4日、風邪をこじらせ同市内で亡くなった。行年82歳。東京都出身。

松井さんは1963年8月に南米産業開発青年隊9期生として「さんとす丸」で渡伯し、パラナ州での訓練所を経て、同州グアイーラ市に住んだ。

その後、70年代頃から約10年、日本でタクシーの運転手をした経験もあったという。80年代にブラジルに戻り、スザノ市で農業等をして生活していた。今年5月頃から風邪を引き、体調不良が長引いていたようだ。

4日夜、スザノ市内で通夜が行われ、翌5日午前10時に同市内墓地に埋葬された。



松井英俊さん

### 【備考】

この記事は8期の小山徳さんが7月6日に10名前後の方々にメール発信したものと同じです。



## 松井さんを偲んで

ジュンジアイー 9期 荒木昭次郎

青年隊9期生の松井英俊さんが7月4日に亡くなりました。風邪をこじらせたのが原因だったようで、我々ブラジル移住の同期生として非常に残念に思い、謹んで安らかにご永眠されますようお祈りいたします。

私は彼と一緒に1962年から、建設省産業開発青年隊関東地方隊9期生として、東京墨田区の建設省訓練所で一緒に訓練受けました。日本国内隊員と海外移住隊員が共に各種建設機械の整備、操作に明け暮れ、マッチャン（我々仲間での呼び名）は皆から好かれ、特に指導員の亀田さんとも良く話しが合っていたようです。工事現場の実習では栃木県に建設中だった川俣アーチダム現場に行き、測量の実習、コンクリート打設の仕事などを実際に経験しました。その後に富士宮市東高校の校庭拡張工事の仕事でダンプとブルドーザとグレーダーを使っの整地工事、その後に東京オリンピック選手村を調布市に作る為の土地の区画整理と整地工事などの仕事も一緒に働いた思い出があります。

ブラジルに移住後はパラナの訓練所で半年ほどでしたが、やはり一緒に過ごしました。その後には各自それぞれ伝手を探し、ブラジル中に各自将来に向けて飛び立って行きました。

マッチャンのその後の暮らしはサンパウロで編集されている楽書倶楽部に投稿されていたのを読んで、青年隊以後の暮らしを理解していました。

奥さんは数年前に亡くなりましたが、その後一人でスザノの農地で過ごし、結婚した家族たちとも時々会って過ごしていたようです。そんな事で良い家庭を築いて今回亡くなりました。安らかにご永眠されますようお祈りいたします。



どうしてリオで5ヶ所の指圧治療所を運営してますます隆盛を極めようとしているのに、ポルトガルにどうして行ってしまったのかと会う人ごとに聞かれる。一口では言えない事情があるので、自分史としてその動機を綴っていく事にしました。

さて人間の一生は人の出会いで変わると言います。「よっちゃん」はブラジルに来て最初に影響を受けた人物は6期生のガイーラ住んで薄荷業にいそしんでいた吉村氏出会った事です。彼曰く、「人生は先ずハツタリ、図々しさ、それにオベンチャラ、さらにホラを吹かないと！」

ハツタリは出来るという自信をもつ事、図々しさは行動に移す、オベンチャラは自分の言いたい事を相手が理解してくれる事、更にホラは男子たるものはこの異国に来て大いなる夢を持って前に向かって突き進んでいくと理解して行動してきました。そして「よっちゃん」の人生の方向づけをしてくれた人物がリオに住んでいた渡辺氏でした。

パラナでは1964の後半から1965年位にかけて諸先輩たちの世話になりながら、サンパウロの大都会に出てからの奮闘時代、そしてリオに視察に来て将来はこの地で活躍出来るのか？ どんな所なんだろうと思っていた時に、何気なくポケットに手に入れた瞬間にサンパウロのリオ行きのバス停で、名前と住所が書かれた一片の紙切れに触り、取り出してみた。運命の瞬間でした。

さてリオに三人の若者が着いて世話になっている家のおばちゃんと朝のコーヒーにパンにバターを塗って食べながら、色々ここのおばちゃんと話して時間をつぶしながらリオの街について語ってもらいました。そして紙切れ

に書いている住所は何処にあるかを聞いたら、歩いて10分も掛からないよと言ってくれたので、我々3人はそこに歩いていく事にした。

もし、「そこはオニブス（バス）またはタクシーで行かないと駄目だね」と言われたら多分行かなかったと思う。全然面識もなくどこの豚野郎かも分かりはしないし、時間を割くのはもったいないと思った。その時はこれっという目的も無かったので朝の10時頃に渡辺氏の所に男3人でブラブラと訪ねていった。

どんな人かな～？ 連れの佐藤さんは、今は柔道の先生ですが昔は美容師もやった事があると言っていた。又もう一人の連れの稲垣さんは現役の美容師であり、ここを紹介してくれたマウロ氏も美容師として働いた事があったので、多分美容関係に縁がある人ではないかと思った。でも土曜日のこの時間は美容師にとってはとても忙しい時間ではないか？ 果たしているのかな？ と思いつつも目的地の家にとどり着いた。

二階建ての普通の家であるがともかく呼び鈴を押してみた。出て来たのは70歳ぐらいの爺ちゃんて用件を言ったらどうぞと中に入れてくれて応接間に案内され、そのソファ（長椅子）に座って待機していました。所が5分経っても10分経っても出てこないのである。

15分過ぎ頃に階段を降りてきて、や～、や～、と手を伸ばして挨拶の握手を求めて来たの各自で挨拶をしてから、サンパウロからリオに来た目的を話しました、そこで色々とは彼は話し始めた。所が相手が何を話しているのかチンプンカンプンでとても理解困難な話ぶりでした。

お話の途中で「よっちゃん」は「ところであなたは何の仕事をしているのですか？」と尋ねた所、相手は怪訝（げげん）な顔をして「ちょっと待って

くださいね」と言ってスタスタと元の2階に上がり始めて何やら手に雑誌を持って私たちにを見せてくれました。

それは「FATOS&FOTOS」の雑誌でブラジルでは有名な写真週刊誌で2ページにわたって右ページには何やら彼が椅子に座って手を伸ばして、左のページには頭を少し下げて腰掛けている少年がいて彼に向かって手をかざしている状態の写真でした。

そこには大きな文字で「ZE ARIGO JAPONES」との見出しで載っていたその瞬間に「よっちゃん」は雷が落とされたような錯覚になり、全てを理解する事が出来ました。どうしてかと言うとあの1967年頃からミナス州の霊媒師アリゴという人物がしばしばテレビ、新聞や雑誌で賑わっていたからです。

それで不思議なことにリオに出発する1週間前に或る映画を見に行った時に短編で彼「霊媒師 ZE ARIGO」の記録映画を見る事が出来て彼の事を理解していました。彼は毎日千人以上の病気で困っている人をさすったり、撫でたり、簡単なナイフで持って手術したりして、大変な人気者で各大都市からオニブス（バス）を借り切って団体で押し寄せている位に大盛況であった。

霊媒とか霊媒師と言うと信じる人と信じない人がいます。信じないと言う人は往々に霊媒とは何かという事を理解していない、何であるかを知らないと言うのが実情でしょう。かく言う「よっちゃん」のおばあちゃんは霊媒師であった。だから小さい時から目のあたりに見て接触して来たので、それは「よっちゃん」の体の一部のようなもので信じるとか信じないは「よっちゃん」にとっては論外なのです。

霊というと一般に宗教に使われていますが、日本において最も偉大な霊的人間は大本教を創立した出口王仁三郎が最も有名な方だと思います。その他、松原こうげつ、西村大観なども彼ら達のやり方が大衆の悩みを解決したり、癒やしたりもしました。

特に出口王仁三郎は若い時から、霊的に強く、1892年2月3日に京都府綾部に住む所の貧しい少し年取った出口なおに「うしとらのこんじん（良の金神）」と名乗る神がついている。それは国祖国常立尊であったので大本では、この日を記念として開教している。

1898年、出口なおと王仁三郎が教団組織をつくり、王仁三郎は出口なおの娘すみの婿となって、なおの養子となったのです。なおには国常立尊の神の教えが御筆先（自動書記）によって伝えられました。王仁三郎には神がかかりによって神示が伝えられていましたが、出口なおが死ぬと、国常立尊の神懸りも加わり「霊界物語－64巻」の口述を始めたのでした。

そして、世の「立替え・立直し」という終末主義的な事が活発化し、知識人（頭山満、内田良平など）や日露戦争で活躍した秋山真之などの海軍士官を含め急激に信徒が広がっていきましたが、これが当局の警戒を招き、1921年には王仁三郎らが不敬罪などで逮捕されたのです。

1927年に大赦された王仁三郎らは布教活動を始めて、1934年には外郭団体「昭和神聖会」を結成したり、軍人関係や民間右翼団体等と連携して活発な政治的活動をしようとしたのですが、1935年に王仁三郎らは再び投獄されました。結局無実の罪で戦後釈放されましたがその間王仁三郎を支えて一緒に投獄されていた仲間が拷問で死んだり、口では言えないほどの苦しみを味わったそうです。

王仁三郎の建設した神殿や諸々の財産が破壊され、今で言えば800億円ぐ  
らいの財産を失ったと言われます。国ではお金として返還しなければならない  
が彼王仁三郎は一切を不問にして請求権を破棄した偉大なる人物でした。

今ではあまり語られないエスペラント語を普及しようと努力したのも彼で  
あり、又中国に渡って数々の奇跡を起こして彼の教えを普及しつつあった  
が、余りの奇跡を起こす人物として彼らの一行を捉えて、銃殺刑にしようと  
したこともあり、間一髪で保釈されたりしたものです。その一行には合気道  
創設者の植芝盛平もいました。出口王仁三郎には有名な秘書がいてその一人  
が生長の家の創立者である谷口雅春であり、もう一人は静岡県の熱海市にあ  
る世界救世教の創立者岡田茂吉である。

さて話は元に戻りますが、リオの渡辺氏の所で FATOS & FOTOS の写真  
週刊誌に2ページの見開きに写っている二人の姿はまさに世界救世教で行わ  
れている浄霊をしている姿であって浄霊をされている少年は白血病でしたが  
これで救われて、話に聞くと彼はその後これを契機に救世教の布教師になっ  
て、多くの人達の世話をしているとのことでした。

浄霊とは岡田茂吉氏が大本教で修業していた時、神示を受けて手から光が  
出て、それを病気や色々なことで悩んでいる人に手をかざして、光を送って  
いると悩んでいる人たちは癒されていくと言って、昔はお光さんとか言われ  
随分と流行ったそうです。出口王仁三郎氏から貴方は神から選ばれた人です  
から、ここ大本教から離れて自分でその技を広めて一派をつくりなさいと言  
われたそうです。戦後最盛期には救世教の信者さんは100万人を超えたと  
報告されていました。

この訪問した渡辺氏はリオにサンパウロからリオに片道切符で救世教の浄  
霊を一人で無一文で普及して、あの頃はリオ州の責任者になっていました。

当時ブラジルの救世教は主に日本人や日系人の多いサンパウロやパラナが主でした。それでは俺がブラジル社会に救世教を広めてやると見栄を切って渡辺氏はサンパウロからリオに挑戦したのです。

なぜかと言うとリオに着いたもののホテルに泊まる金もない、友達も知っている人も皆無な状態で、寝るのはコパカバーナの海岸であった。一軒ずつ家を訪ねて、「浄霊はいかがですか？」と訪ね歩いたものでした。

「浄霊ってなんだ？」と拙いブラジル語でなんとか説明して、それでも「浄霊」を受けてくれれば良いのだが、ほとんどはけんもほろろで中にはつばまで吐いておっぱらわれたりもしたものでした。

X - ----- X ----- X ----- X ----- X



**【余白に写真】 熱弁をふるう北田隆雄さん** 7月10日、8期生が8人集まった長田馨歳さんの金婚祝いの席で、左から北田隆雄、森安夫（後ろに美智子夫人）、長田馨歳、その後方で顔が隠れているのは山木源吉各氏。48ページからの長田さん本人の文と写真を見てください。（志方）



犯罪者が大統領選に立候補するという法治国家ではあり得ないことがブラジルで起きている。犯罪者とは元大統領ルーラのことで、今年10月の大統領選に向けて選挙運動をしている。現在のルーラは、最高裁がルーラに対する有罪判決を無効とし裁判のやり直しを命じたことから、ブラジリア地裁による裁判を待つ身である。被告であって無罪になった訳ではない。今のところ裁判が始まる気配は全くないので、ルーラは無罪になったような顔をして選挙運動をしている。

何故ルーラを犯罪者と呼ぶのかについては、ルーラと最高裁の係わりについて説明する必要があると思う。少々長くなるがこれまでの経緯を述べたい。

2018年4月、ルーラは懲役12年の実刑判決により逮捕・拘束された。しかし、1年半後に最高裁はそれまでの規則「二審有罪で刑の執行」を禁止したので、ルーラは釈放された。580日間の服役の後だった。

最高裁はこれまで規則の変更を何回となく繰り返してきている。以前は「三審有罪で刑の執行」を実施していたが、2016年に見直し「二審有罪で刑の執行」に変更した。理由は、裁判に長い時間が掛かることへの対処、処罰を免れることを防ぐ、刑の執行を長引かせることを防ぐ、などもっともなことだった。民主国家の多くは既に「二審有罪で刑の執行」を実施しており、世界の流れに沿うもので大いに歓迎すべきものだった。

ところが、2019年に最高裁はまたもや規則を変更し「二審有罪で刑の執行」を禁止した。この時、大法廷の審議では賛成5反対5と意見が分かれたが、最後にトフォリの反対で決着がついた。結果として、二審・三審で有罪になったとしても逮捕されることなく最高裁まで控訴することが出来る。最高裁まで行くには長い時間を要するので、時効になる可能性が非常に高くなる。簡単に言うと、重大な罪を犯したとしても上訴し続ければ逮捕されることなく最高裁まで行ける、その頃には時効が迫っているので時間切れになっ

てしまう。規則の変更でブラジルは犯罪者天国になってしまった。汚職容疑で追及されている政治家達は拍手喝采したことであろう。

当時、最高裁の長官はトフォリで、彼は長官の権限を行使して規則を見直したところがある。規則の変更は度々出来るものではなく、前回の見直しから僅か1年半後に再び見直しをするには特別な理由がなければならない。それがトフォリの経歴から見えてくる。トフォリとルーラは密接な関係にある。トフォリは労働者党(PT)の弁護士として長年働き、ルーラ政権時には政府の弁護士となる。その後、単なる弁護士で判事の経験がないにもかかわらず、ルーラの指名でいきなり最高裁の判事となった。ルーラに取り立てられ予想外に出世したトフォリ、彼にとってルーラは恩人である。「トフォリはルーラを釈放するために規則を変更した」と見るのが、衆目の一致するところである。

一連の流れをまとめてみると、トフォリは自分が最高裁の長官になるのを待って、ルーラ釈放のシナリオを充分検討し、事前に内部の根回しを行った上で実行した、と見るべきであろう。

2021年4月、最高裁はルーラに対する有罪判決を無効にし、裁判のやり直しを決めた。ここで言う有罪判決とは、パラナ地裁の判事だったモーロがルーラを懲役9年6ヵ月の有罪にしたのを指している。無効にした理由を「モーロの判決は公平さを欠き偏った判断によるものだった」としているが、最高裁が決定の根拠にしたのは検証されていないハッカーの情報だった。最高裁の決定に至るまでの経緯を過去にさかのぼって説明したい。

モーロが法務大臣になって半年を過ぎた頃、突然、盗聴されたモーロの携帯電話の内容が暴露されるという事件があった。インターネットのサイトにある暴露記事には「ルーラに対する裁判中にモーロと検察官の間で不正な談合が行われていた」というのがある。これに飛びついたのがルーラの弁護団で、暴露記事をもとに有罪判決の無効を最高裁に要請した。これに応えたの

がジルマール・メンデスで、最高裁の“悪”と見られている判事である。以前からラヴァ・ジャットを潰そうと考えていた人間であり、ラヴァ・ジャット作戦で逮捕・拘束された大物政治家・実業家を次々に釈放していた。またモーロのパラナ地裁での大活躍を苦々しく思っていた人物でもある。

最高裁の審議で、ジルマールはルーラ弁護団の主張をそのまま受け入れ、有罪判決の無効を主張した。一方、良識のあるバローゾは「ハッカーが不法に盗聴したことはプライバシーを侵害する犯罪行為であり、不正な手段で得た情報を証拠にすることは禁じられている」と正論を述べている。最高裁はルーラ弁護団の要請を却下すべきだったが、ルーラを擁護する判事達(ルーラとジウマに指名されて判事になった)はジルマールに追従し、モーロの有罪判決を無効にした。まともな判断をした判事はわずか3名だった。判事達の腐敗・墮落により最高裁は機能せず、不法な決定がまかり通っている。

前述の暴露記事を発表したのは、当時、ブラジル在住のアメリカ人ジャーナリスト、グリーンワルドだった。彼は「情報は匿名によるもので、名前を明かすことは出来ません。情報の元はブラジル国外にあり、家宅捜査をしても何も見つかりません」と言い、暗に捜査不可能を匂わしていた。現在に至るも誰がモーロの電話を盗聴したのか不明で、内容が本当なのか嘘なのか検証もされていない。グリーンワルドの背後関係も明らかにされておらず、全く不可解なことである。

事件の首謀者が外国人を使ったところに闇の深さを感じさせる。「外国人が勝手にやったことで我々の知ったことではない」とでも言いたいのだろうか。グリーンワルドが出国してアメリカに帰れば、捜査の手がかりも無くなる完全犯罪となる。モーロは、彼が刑務所送りにした政治家・実業家達から恨みをかっていたのは確かで、特に労働者党(PT)の汚職議員からは猛烈な反発があった。モーロの失脚を狙った陰謀で、ルーラを支持する左翼の仕業と考えられる。事件の背後の背後にはルーラ自身が居るのかもしれない。



## 世論調査は信用できるのか サンパウロ 9期 貝田定夫

最近のブラジル社会で気になることがある。今年10月の大統領選に関する世論調査が時々発表されるが、我々が肌で感じることと調査結果が全く合わない。ルーラはかなり前から選挙運動を始めブラジル各地を回っているが、行く先々で「ルーラ、泥棒」と罵声を浴びている。国民は彼が汚職の罪で刑務所に入っていたことを忘れていない。北東伯はルーラの票田で圧倒的な支持を得ていた所だったが、そこでも「ルーラ、泥棒」の声が聞かれる。

一方、ボウソナーロは種々の行事でブラジル各地を訪れているが、彼は行く先々で熱い歓迎を受けている。庶民的で気軽に話かける彼のまわりにはいつも人が集まる。ところが世論調査の結果は、現場で見る人気とは全く逆で、1位のルーラが2位のボウソナーロを大きく引き離している。行く先々で泥棒呼ばわりされている人間が、世論調査でダントツの1位とは納得がいかない。調査機関が買収されているのか、それとも調査のやり方に問題があるのか、よくわからない。そこで、新聞やテレビには出ない他の調査機関の結果も調べてみることにした。1位ボウソナーロ2位ルーラを期待していた。

インターネットで調べてみると世論調査の一覧表がある。合計12の調査機関があり夫々調査結果を発表している。よく見ると、世論調査すべてにおいてルーラが1位でボウソナーロが2位になっている、これには驚いた。調査機関によってルーラとボウソナーロとの差に違いはあるものの順位に変わりはない。3位以下は10%に届かず事実上、上位2人の戦いということだろう。一覧表の中で、新聞・テレビでよく見かけるDATA FOLHAの調査結果は、ルーラ47%、ボウソナーロ28%、その差は19%と大きい。自分が見たのは多分これだろう。その他11の調査結果は、ルーラとボウソナーロの差が5%~12%の間に収まっている。しかし、どれを信用していいのかわからない。わりと信用できそうなPARANÁ PESQUISASの調査では、ルーラ41%、ボウソナーロ36%、と拮抗している。

新聞・テレビには左翼寄り、保守系、あるいは極左などがあるが、調査機関にも同様な傾向があると思われる。調査機関の中で極端な結果を出している DATA FOLHA は左翼寄り、その他は中立なのかもしれない。

前述の「ルーラ、泥棒」と呼ぶ連中はボウソナーロの応援団と見られるが、世論調査で1位のルーラを支持しているのは誰なのか？ 考えてみると、ルーラ・ジウマ政権時に恩恵を受けた連中が支持していると思われる。労働組合、MST(土地なし農民運動)、芸能人、左翼の政治家、左翼支持の実業家・諸団体などが頭に浮かぶ。

労働組合や MST にはルーラ・ジウマ政権から金が流れていた。ルーラが「いざとなったら MST は自分の手足のように動く」と言っていたのは事実である。左翼の政治家や左翼支持の実業家はルーラ・ジウマ政権を支えた連中である。芸能人については複雑なことになっているので次に説明したい。

ブラジルには「Lei Rouanet」という法律があり、芸能人(歌手、俳優、タレントなど)を支援している。間接的にはあるが政府から芸能人へ金がわたる仕組みになっている。ルーラ・ジウマ政権時には彼らの懐にどんどん金が入り潤った。ところがボウソナーロ政権になって不正が暴露された。彼らは自家用飛行機や高級車を買、豪邸を買う者までいた。ボウソナーロが「法律の乱用はいかん、本来の目的に戻せ」と言い審査を厳しくしたところ、芸能人達から猛烈に非難された。フェルナンダ・モンテネグロという年の頃 70 前後の有名な女優がいるが、テレビでボウソナーロをクソミソに批判した。有名人たるもの、もう少し分別があつて欲しいものだ。ブラジル人の性質として自分が不利益になると態度を豹変する癖がある。

「Lei Rouanet」本来の目的は、資金のない有望な新人を政府が支援することである。しかし、実際には功成り名を遂げた芸能人が金をもらっていた。ルーラやジウマは彼らの支持を得るためこの法律を利用していたのである。世論調査の話から少々脱線したようであるが、「ルーラを支持する者は、まともな人間ではない」と言いたい。◆

菊地義治さん(5期89番)がパウリスタ賞の日系榮譽賞を受賞されました。おめでとうございます。下はブ日報記事です

(1) 第82号
ブラジル日報
2022 (令和四年) 年 5月 3日 (火曜日)

# 第65回パウリスタ賞授賞式

文協大講堂で7日午前9時半

ブラジル日報協会(林隆祥会長)主催の「第65回パウリスタ賞授賞式」が5月7日(土)午前9時30分から、聖市リベルダーデ区のブラジル日本文化福祉協会ビル大講堂(Rua São Joaquim 381)にて行われる。

ぶら  
じる  
日  
報

DIÁRIO  
BRASIL NIPPOU

DIRETOR PRESIDENTE  
Tadao Ebihara  
JORNALISTA RESPONSÁVEL  
Aldo Shigen

ASSOCIAÇÃO BRASIL NIPPO  
CNPJ 44 671 943/0001 95  
Endereço: Edifício Bunkyo  
Rua São Joaquim, 381 - 6º Andar  
Liberdade - CEP 01508-900  
São Paulo - SP - Brasil  
CEL WhatsApp: 11-97820-0303  
11-97822-1661



日系榮譽賞など34氏を表彰

同賞はパウリスタ新聞が1956年、勝ち負け抗争によって分断状態にあった日系社会の融和を図り、同紙創刊10周年記念事業として創設した。当時は「農民賞」「文学賞」「スポーツ賞」の3部門を対象に、各分野の発展に貢献した人物を表彰した。同紙廃刊後はニッケイ新聞社が主催し、今年からブラジル日報協会が行うこととなった。賞創設当初あった農民賞、文学賞の表彰は現在行われていないが、スポーツ賞は現在まで途切れることなく続いている。前回からは「日系榮譽賞」「社会功労賞」「文化賞」が新設された。今回は総勢34人が表彰される。式典を前に各人の経歴を紹介する(敬称略)。(下記に菊池さんの経歴を転載します)

【日系榮譽賞】

菊地義治

(82歳、岩手県)



一ノ関第二高等学校卒業。90〜98年までブラジル岩手県人会会長。90年本門佛立宗日教寺理事長。98年NHKのど自慢動員委員長。98年日本移民90年記念ふるさと創生地域リーダー交流事業実行委員長。03年日伯友好病院運営委員長。05年サンパウロ日伯援護協会自閉症青空学級(現・自閉症児童養育施設PIPA)創立委員長。06年サンパウロ日伯援護協会リベルダーデ福祉センター建設企画委員長。11年サンパウロ日伯援護協会会長。12年海外部門医療功労賞並びに厚生労働大臣表彰。17年サンパウロ日伯援護協会会長第4代評議員会長。同年旭日双光章受章。18年日本移民110周年実行委員長。

サンパウロ日伯援護協会第4代評議員会長。岩手県一関市生まれ。南米産業開発青年隊として59年渡伯。県立

# 白昼の凶弾

フォス・ド・イグアスー 十期以降 齋藤信夫

安部晋三元総理が、白昼群集の面前で銃撃されました。アメリカじゃあるまいし、世界でも治安の良さじゃ評判の日本だというのに・・・。  
その日本でこのような事件が起きるなんて、まさに前代未聞の大事件でした。

多くの善良な日本人達は、驚き、悲しみ、葬式の日には霊柩車がゆっくりと、ゆかりの地を巡回しましたが、沿道には其れを見送る人達が前例を見ない、人出でありました。其れは日本ではめったに無い、手製の銃による白昼の殺人への同情もあったのでしょうか？

彼は総理を辞めたあとでも、日本人にとって大人気の偉大な政治家だったのですねえ。

政界では同期当選の三人男として、独特の評判であったそうですねえ。現総理の岸田文雄はスマートでイケメン、自民党の幹事長である茂木敏允は東大出で頭のいいのはピカー、そして安部晋三元総理は明るく人柄がいいと云う事だったそうだ。

なるほど安部晋三元首相は見た感じでは、明るく人がよさそうです。あくまで見た感じでは。其れじゃ実際はどうだったのでしょうか。  
相当悪い事もやりそうですが？ 森本学園の問題では、自殺者も出たのではなかったかな？ でも知らん顔です。それから花見の宴はどうなったのでしょうか？

銃撃犯人の山上徹也容疑者の母親は統一教会の信者となり、統一教会の話にのめり込み、親からもらった彼女名義の財産をたたき売って、統一教会に寄付として貢ぎ込んだ。家庭はメチャクチャになってしまった。

その統一教会と安部元首相は繋がりがあから、彼の意見を統一教会は重んじているであろう。安部元首相はその統一教会の片割れだから、これを銃殺しようと、山上容疑者は、考えたか？

安部家は祖父の岸信介元総理が統一教会の後ろ盾として、日本での布教に助力したのが、三代に渡る繋がりと化した。

山上容疑者はそれらを調べ上げて領いたことだろう？ 確かに、億と云う大金を、統一教会に貢ぎこんだのは、誰でもない、山上容疑者の母親本人の責任であろう。

協会側だって「庶民が億という大金を寄付して、大丈夫なのか？」などとは考えず「はい！ ゴッツアンです」とばかりに、戴いてしまった。「ばかな やつだ！」などと、腹の中では思っていたに違いない。

それも元はと言えば、岸信介から続いている、安倍家と統一教会の闇の繋がりがあり、悪は安部晋三である。と「風吹けば桶屋が儲かる」式の思考で、山上容疑者は安部晋三を銃殺すべし、となったのか？

その後、安部元総理を秋に「国葬」にする事に政府は決定した。

安部元総理は最長政権であったのは事実だ。けれど長いだけでどれ程の事を成し遂げた、というのか？ 「三本の矢」「アベノミクス」どれも成功とは言えない。外交は？ あれは「お友達 外交ゴッコ」だ。誰もが嫌うアメリカ大統領のトランプさんと仲良くゴルフなどして。でもロシア大統領のプーチンとは？ なんと27回も首脳会談をしたそうじゃないの？ そしてその成果は？

私の安部元総理の評価は？ 短歌にすれば以下の如し。

もりとかけ 清算せずに 花見酒  
それでも民は 悲しみに泣く。



## イグアスー便り

フォス・ド・イグアスー 10期以降 齋藤信夫

青年隊先輩諸賢方々、お元気におすごしでしょうか？ 二ヶ月振りのご挨拶です。

二ヶ月に一度の会報ですが、書き手が毎号ほぼ同じ、5~6人が常連の投稿者ですが、もっと多くの人たちが投稿して、会報がもっと賑やかになればいいなあと願っております。それで私は、恥知らずにも拙い文章を「枯れ木も山の賑わい」とばかりに、投稿を続けている次第です。

何度も会報に書いておりますが、私は、パラナ州の西の果て、パラグアイとアルゼンチンとに国境を接しているフォス・ド・イグアスーに在住しており、早50年になろうとしております。

それで今回もイグアスー地方中心の出来事を、皆様にお知らせしようとパソコンに向かっております。

パラナ川をはさみ、パラグアイと国境を接している当地は、パラグアイに行きたい場合は、1965年に完成した、長さ552mの「友情の橋」を渡って、行く事になります。ところがこの橋は、常時もの凄い渋滞でして、わずか552mばかりなのに、税関はNo Checkでも1時間もかかるのが普通の事です。

それでも橋を渡って、パラグアイの国境の街 Ciudad del Este に行きますと、ブラジルでは買う事の出来ない安くて便利な輸入品が沢山あるので、ブラジルに住んでいる人達は、人種を問わず買い物に行くのです。

そしてパラグアイ人は、ブラジルの方へ日用品などを仕入れるためにやって来るのです。早く渡りたい人達は、モトタクシーで行く人も結構いますが、これでは大した荷物も運べません。

運送のトラックは大部分が、夜間に渡りますが日中でも、時間を気にせずに渡っているのも、少なからず見られます。それで今、この「友情の橋」の下流7km程の所に、第二の国境の橋を作るべく Ponte de Fraternidade を新しく建設中です。

「友情の橋」はコンクリートで建設した、アーチ型の橋ですが、新しい橋は、つり橋で、ブラジル側、パラグアイ側それぞれの川の岸边に180mの塔を立てワイヤーを取り付けて下ろし、両岸から橋を作りながら中央に向かいます。両岸から川の中央に向かって橋が伸びて行きそこで接続、橋が出来上がります。

その後は「手すり」の取り付けや細部の仕事が続き9月に完成だそうです。橋は全長760mで『友情の橋』よりも約200m長くなります。

滝から流れてくるイグアスー川が、新橋の250m下流のところでパラナ川と合流して下りますが、その合流点が川を挟んで、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイの三国国境の接点になります。それぞれの国の三国国境モニユメントが建っています。これらもイグアスーの観光ポイントになっています。

この二つの川の合流点で、時に珍しい現象を見る事が出来ます。其れは2本の川の水の色の違いです。上流の降雨次第でイグアスー川が濁って褐色になり。パラナ川は上流で雨が降らなかったのが真青に澄んでいます（写真参照）。

逆にイグアスー川は青く、パラナ川が濁ったり、両川が共に青かったり、またはどちらの川も濁ったりと上流の降雨次第で川の症状が変わるのです。此の橋が完成すれば、ブラジルとパラグアイは橋がふたつになります。

ブラジルとアルゼンチン間は、イグアスー川の合流点から、2 km程上流に、1985年に完成した橋 Ponte Presidente Tancredo Neves 480 m がありますが、アルゼンチンとパラグアイの間のパラナ川には橋がありません。

今、南米では冬休み真っ最中で、イグアスーの街は2年振りに観光客で賑わっています。特にアルゼンチンの観光客が多く、普段は簡単に越境出きるタンクレード橋が渋滞しています。アルゼンチン側の出入国のチェックがうるさいからです。

パラグアイとの国境の橋は、間もなく完成いたしますが、橋に続く道路工事の方は少し遅れ気味で、年が変わって、来年の3月に完成するようです。

「友情の橋」からパラアナ側の川べりを通り「Fraternidade」まで行く道路。Curitiba から Cascavel を通りイグアスーに来る国道277号線は、イグアスーの街の北側を真っ直ぐ行けば、「友情の橋」に行けますが Fraternidade へ行く道路はありませんのでイグアスーの街の手前で277号線から左に入り、Fraternidade へと行く道路の工事もあります。

その新道を右側にイグアスーの街を遠望しつつ、カーブをして西に向かって行きますと、街からイグアスーの滝へ行く国道469号線と交差します。そこでは既に立体交差の道路工事を始めております。そこからアルゼンチンへの道路はありますので、新道はその道路につなぎアルゼンチンへと行くことができます。そしてその道路から右に入る道路を作り、新道は Fraternidade の橋に繋がります。以上最近のイグアスー事情です。また、橋と道路が完成しましたらお知らせ致します。



イグアスー川とパラナ川の合流点

## 建設中の Ponte de Fraternidade



別角度から見た建設中の橋



# 富士宮東高校のグラウンド整地工事について

ジュンジアイー 9期 荒木昭次郎

南青協便り 215号によれば、静岡県立富士宮東校敷地の整地に参加した青年隊員に感謝の記念碑が作られていたそうですが、私も当時にその校庭敷地内の整地工事に関った一人でしたが、その後に記念碑が作られた事は知りませんでした。それに校舎の改修で記念碑が廃棄の憂き目に会いましたが、OB会との話し合いで継続がつづけられるとの事で知り大変うれしく思っています。そんなわけで当時の事を少し詳しく書いてみます。

1962年9期生だった当時の我々産業開発青年隊関東隊は、海外班と国内班と一緒に、東京墨田区にあった建設省関東中央整備工場に設けられた臨時訓練所に仮住まいをして、夜間に講義を受け、日中は工場に集約されていた建設用の各建設重機の修理作業などの手伝いとか簡単な溶接などをしていました。

その内実際の工事現場行きの話しがあって、栃木県に建設中だった川俣ダムの実習が決まり、グループで主に測量とコンクリートの生産から打設工事まで経験して来ました。その後研修所の教官の話しで、富士宮の東校の整地工事の要請があり、皆で行く事になり、富士山の麓の東校（当時は女学校として開校していました）に皆で行き、校舎前からの空地の測量仕事と見覚えたブルドーザの操作を駆使して仕事を始めました。

実際に作業を始めましたが高地からの掘削と低地への運土の仕方などいろいろ問題があり、教官に話して、重機の効率を上げる作業方式を実際に学ぶ必要があると話し、その専門の教官を呼んで下さいと頼みました。

その後すぐ工事仕様専門の吉留教官が来てくれ直接作業のやり方を指導してくれました。その後は私たちも安心して作業に熱中出来、作業の効率も上がり期間内に無事に整地作業も終えて完了しました。この女子高の仕事では初めてのブルドーザ一操作でしたが、特に土曜日などは校庭の周りにおおくの女学生たちが見学に来られ、我々もこれ幸いと張り切って仕事の成果を出

そうと頑張りました。一緒に写真なども撮ったりした事もあって楽しかった  
実習の思い出となっています。

この作業以前に、実習に行った川俣ダムに付いては楽書倶楽部第41号  
(2018年2月)に投稿しましたので次回に紹介いたします。



---

## イースター島見聞録

広島県6期 三戸伸晃

本日はワシの「世界一周旅行の面白噺」のその後を書き続けて行こう。

さてペルーを出港して、いよいよ南太平洋横断航海に入る。南太平洋は心配したほど波も立たず、南からの強風もなく順調に南太平洋のイースター島を目指す。

イースター島(チリ領土)はチリから3300km東方にある孤島である。その孤島に有る「モアイ」と呼ばれる石造群(世界遺産)を観に行くらしい。

ペルーを出港して船は順調に航行し、5日目にイースター島に着いた。しかしこの島には小さい波止場は有るけれど大型船が接岸する「波止場」らしき岸壁は見当たらん。如何するのか? 不審に思えども船側からは何一つ説明はナイ。波止場らしき場所から1km位離れた沖合に投錨する。

ハテ? 如何にするのか? ワシ等船客は一様に「頭」を傾げていたら船内放送で本日上陸出来る人は、船室の「番号」の順番で決める。

早く上陸したいワシ等爺様たちは甲板に出て「船外艇」に乗り込む準備をする。小型船外艇にはせいぜい10名前後しか乗れないから、一時も早く行列の先頭に立ちたい。小型船外艇は5~6隻が順序よく上陸客を運んでくれる。上陸したらしっかり大地を踏みしめてホットする。

何日もユラユラ？と揺れる足元にウンザリしていたから、揺れない大地の「安心感」がとても嬉しかった。

上陸順にバスが出発する。島の彼方此方にたたずむ「巨人群」の前に停車して、巨大な石の巨人達を観察する。その大きさに頭をひねる。一体誰が、この石の巨人をナニの目的で制作したのだろうか？ 実に摩訶不思議な巨像である。それは島の至る所に立っている。何故かそれぞれの巨人達は 全員が同方向の西を向いて「直立不動！」している。緩やかな丘の麓にはまだ制作中？ の石像が横たわって寝ている。実に「摩訶不思議」な島である。

日本語をしゃべれる人が説明してくれるには、この島の浜に立っている「石像」は実は日本人が殆ど建立したのでアリマス！ と言う。エッ！何処の？ 誰が？ の問いかけにその人はゆっくりと話し始めた。

日本人の「重機製造会社」社長が数年前この島を観光に訪れて、この地にアチコチに散乱している「巨人像」を視て彼なりにイロイロ考慮した結果。ヨシ！ワシがこれ等の石像を「整理・整頓」して立派な「世界遺産」を造ろう！と広言！ 帰国して会社の古株を集めて宣言！

「ワシの言う事を良く聞け！ 聞けん奴は即刻辞めろ！」と全員に「喝！」を入れ従業員は社長の言う事をジックリと聴く。この演説以前に会社の幹部連中には大凡の話は言い聞かせていて、幹部たちは「黙して逆らわず」の姿勢。

「我が社の重機類で大型レッカー車（20トン吊）2台。トレーラー20トン積み2台。ショベルカー（1立法堀）1台。ブルドーザー1台。他小型バス等々を南太平洋のイースター島に輸送する」と言う。社員一同は呆気にとられてほぼ全員のヒソヒソ話が始まる。

そこに社長の一括！「静かに！」おもむろに社長は自分の考えた方法を全員に判る様に説く。「我が社が世界を驚かすような善行を敢行する！」と言

い切った。「ワシの行動に不満が有る者は、遠慮は要らん直ぐにここから帰れ！」いよいよ社長は調子づいて「ワシ以外に 10 名の技術者を選び今年中に現地まで行く事にするから。解散！」と言って社長はサッサと部屋に帰った。

ハテサテ、かようなハチャメチャな社長談義に社員一同は、ドウシマシヨ！ 右往左往。しかし独断専行の社長を抑える「根性のある」社員も手を挙げられず、しぶしぶ「一蓮托生」（いちれんたくしょう）で、ヨシ！ ワシは社長に付いて行くゾ！ と一人が言えばワシも、ワシも！ と賛同者が出る。

独断社長はニンマリと笑いヨシヨシと満面の笑顔で決心を改める。諸々の諸問題は全て「弁護士」に任せて、いよいよ実行に移る。

機械類の海上輸送は専門商社に任せ、いよいよ出発して社長以下 11 名の「運転手・助手・工具」達は現地入りをした。チリ国政府要人達に挨拶し、現地作業員 20 名を雇う。

作業の行程は全て日本人技術士が書面でチリ政府に提出「安全第一」をモットウに、あちこちに散らばる石像を数か所の「見栄え」のする場所に移す作業に島の住人達は毎日毎日見物がてら眺めている。

チリ政府は、何故日本人達は此の作業に対する諸経費を何一つ要求しないのか不思議がる。チリ政府役人達も作業を進める日本人達が何一つ「文句・不平」を云わない事を不思議がる。いよいよ作業は進み、大方の石像は起こされて海岸端迄移動してピン！と立つ。

社長も作業中は毎日現場に立ってどんどんと進む工程を「満足気？」に観て回る。いよいよ工程も完成して、ハテサテ竣工時になって「サア終わった！ 持ち込んだ全ての重機類はチリ政府に「進呈」しましょう！」と社長は云った。チリ政府の大統領以下全役人達はまさにびっくり仰天、何故だ？

その後、日本政府とチリ政府の間に「素晴らしい友好関係は続いている」らしい。我々の船が滞在中、島からチリ人が船に来て暇にしているご婦人達にモアイ像の作り方を教授してくれた。お陰で我が細君もモアイ像（小型の）を作成。12年後の我が家には、小型のモアイ像が飾られている。

## ビキニ環礁・（マーシャル諸島） 2021/12/05（日）

マーシャル諸島南東方のタヒチ島（フランス領）目指して船は進む。

船内での説明ではタヒチ島は未だに独立出来ずフランス領としての汚名？をしぶしぶ我慢して守っているらしい？ 何故？ 独立出来ないのか 21世紀の今日、ワシ等日本人には中々理解不能？ であるが、それぞれの植民地政策に依ればイロイロ問題点があるらしい。南太平洋には諸々の諸島が第二次世界大戦後に「独立！」を宣言して国家としての自立を果たしているけれど、南太平洋に散在するフランス領の諸島は何故か？ 独立を認めない由。

アメリカ海軍に依る「核爆弾の爆発実験」の実験場であるビキニ環礁（アメリカ領）での実験でアメリカ海軍はビキニ環礁周辺 100 km以内への諸外国の漁業船の立ち入りを「厳禁！」する云々を、太平洋岸に接する諸国にアメリカ大統領名義で「厳命！」したらしい。これはその各国の漁労従事者に厳命して遠洋漁業船のオーナーにも厳しく「禁止令」を発行したらしい。

ところが我が国の遠洋漁業従事者（個人船主たちを含め）にも厳しく通達したが、一匹オオカミ的「漁師」は「へいへい解ってます」と返事だけは政府の指示を「了承！」したけれど、マグロハイエナ&カツオ漁等の「高級魚」の漁場を「ハイハイそうですか！」とフタツ返事で漁船を方向転舵？する様な心優しい「船頭」が居るはずもナイ！

船頭の腹心算では網を張ったら、網を上げるまでの漁は当たり前でアラヨッ！と網を上げてマグロを船上に並べて、やったぜ！

第5福竜丸もその伝で「ピッカー ドーン」と核爆弾の爆発に出遭った？とか。大久保漁労長以下複数の漁師達が被爆した。

第五福龍丸のオーナーは即刻。その船長に「帰国」の命令を下した。

ワシ等広島での「原爆投下」は当時、世界で初めての原爆被害者であったが。その3日後に第二番目の「原爆投下」で長崎県長崎市での被爆、其の後の世界での第三番目の被爆者は第五福竜丸で被爆した複数の漁業従事者である。

当時の日本政府要人達はアメリカ政府の偉いさん達に「斯く斯く然然」(かくかくしかじか)と声を潜めて？ 不平・不満を云ったけれど当時のアメリカ上層部の「要人」達は「我、関せず！」と無視する始末だった。

アメリカ海軍太平洋艦隊司令曰く「ナニを云っておるのか？ この件に関し我が国の軍部担当司令部では調査の結果、貴国の漁業従事者宛に何度も注意・勧告を行い、貴国政府要人達は当然我が国の危険区域進入禁止条項は知れ渡っているはず！ 貴国で処理すべきである！」と実に厳しい態度で「ワシヤ知らん！」と木で鼻をくくる如き冷たい返事で逃げる。当時の日本政府は一切アメリカには逆らえなかった。

アメリカは最近では可成り日本人達を目線に気配りし始めた様子。ではあるが、あく迄も民間交流や芸能人の交流での柔らかさで有って、国対国の交渉はマダマダあくまでも「上から目線？」の姿勢は崩しては居らん。我が国の指導者階層の政治家連中は飽くまで基本的には「アメリカ第一」の姿勢を見せている。

はてさて、ワシが偉そうに日米友好関係に持論を垂れている間も船はドンドンと東方に進み、次の訪問国ニュージーランドを目指し、安らかな航海で11月下旬にニュージーランド北島のウエリントン港に入港した。

この国はイギリス領であったが1945年に独立した。国民は約360万人で約半数がポリネシア人、残り半分はイギリス系欧州人。昔からの農業・牧畜が盛んで羊毛・乳製品を生産する。この国のラグビーチームはハチャメチャ強い。最近の成績はほぼ毎年「世界一」を誇る。

そこでは諸々のポリネシアダンスや氣勢挙げての「歌・唄」アレコレを見せてくれた。また、ご当地「大御馳走？」の素晴らしい「ステーキ」を御馳走になった。そうか！ そうだろう、この国には肉の羊・牛・山羊を諸外国に輸出して、国の経営を潤わせている。それ以外では乳製品・キーウイ(果物)類以外の輸出モノは殆ど思いつかん農業立国だ。

車の窓からの「風景」は美しいけれど、只の田舎道が延々と続くばかりで何一つとして我々を驚かさず様なコレハ！と喜ぶ面白さに欠けている風景ばかりである。首都ウエリントン市内も意外とも静かで、実に変化に乏しい市内観光であった。二日もこの港に滞在していて、我々は「もう結構！」と飽きてしまった。

次はオーストラリアのシドニー港へ、「期待を」膨らませて出港した。ニュージーランドからシドニー港までの距離は約2000kmである。我々の感覚では日本の広島市～東京間は約1000km(新幹線では4時間丁度)往復して2000kmの感覚だ。但し客船では丸々二日間の航海で、シドニー港に入港する。ナント静かな内海航路だ。

遙か彼方に真っ白なトランペット屋根(六層屋根)の巨大建造物を横目に観ながら入港する。実に素晴らしい息を呑むほどの絶景である。オーストラリア最大の都市(375万人)らしい。

### ラバウル小唄を

今日は12月9日。新聞を視たら、80年前の12月8日に我が日本帝国海軍(山本五十六元帥率いる我が帝国艦隊)はアメリカ海軍艦隊の係留港・ハ

ワイの「真珠湾」（パール・ハーバー）に奇襲をかけて、太平洋戦争が始まった日である。

たまたま当日は日曜日でもあってアメリカ艦隊の乗務員達は朝から「鼻歌気分」のんびりしていた矢先に、いきなりダイヤモンド・ヘッド方向から日本軍の戦闘機隊&爆撃機がパール・ハーバーに係留中の諸々の「軍艦」目掛けて爆弾を投下し、アメリカ太平洋艦隊の主要艦の殆どを「爆破・撃沈」した。奇襲作戦大成功の「太平洋戦争」の開戦であった。

アメリカ側は「いきなりの奇襲は卑怯である！」と世界に発信したらしい。日本軍側では、戦争の開戦に「卑怯もクソもあるものか！」と此の開戦を「大喜びで祝う」。

太平洋の島々での戦闘ではどこの島でも圧倒的なアメリカの物量作戦で、日本軍は殆どの占領地ではコテンパンにやられたらしく、我々の先輩だった陸軍日本兵は殆どの島での戦闘で野垂れ死にさせられたらしい。

当時の我が国の陸軍上層部の作戦参謀たちの頭脳がアメリカ軍部と比較して可成り劣っていたことは戦後の評論家の書き物で歴然としている。

我々戦後派の者から意見を聞けば、余りにも「イケイケドンドン！」でそれを止める「力量」の有る軍人がいなかったことも一方的な「敗戦」の要因ともいえるだろう。

前代未聞の「原子爆弾投下」で一般市民を巻き込んだ「核兵器使用」をアメリカ宛に問えば殆どのアメリカ人の回答は「リメンバー・パールハーバーの報復攻撃だ」。

話をワシの世界一周に戻す。オーストラリアのシドニー港を出港した日は元旦だった。船内の食堂での「朝食は」餅入りの「お雑煮」でありました。その美味しい事に大喜び。船は調子を上げてドンドンと北上し1月5日にはラバウル島に到着した。

ラバウル港の入口の小山はその当時は活動中の噴火山で、時折小噴火で船上までパラパラと火山礫が降りかかる程度。しかしラバウルも環礁に囲まれた島で接岸する「波止」も無く、陸地から1km沖合に投錨して小舟で上陸した。波止場にはたくさんの島民が詰めかけてワシ等日本人が珍しいのか？何だか島中の人々がワンサカ集まっている。

島に降りて最初の観光地は港近くの「元日本軍の飛行場跡」その滑走路は全て火山灰で（約2m位の厚みで）覆われていて所どころ穴が掘られていて、その穴の中に旧日本軍の「ゼロ戦型」戦闘機が翼を切られて置かれている。

見渡す限り火山灰の滑走路を眺めても別段に面白味も湧かず、次に見せられたのは、山沿いに建つ小さな崩れ掛けの小屋。そこは旧日本軍南方司令本部でここを住居としていた「山本五十六元帥」の宿舎だと言う。

元帥（生存中は大将、死して後に元帥に昇格）は昭和18年のある日 戦線視察でラバウル空港を飛び立ち（警護の戦闘機2機・爆撃機1機同行し）パラオ島視察に。目的地付近でアメリカ軍戦闘機群の「待ち伏せ」に合い、撃ち落されてあわれ戦死された由。当時の日本軍の連絡「無線」は全てアメリカ側では「解析」されていたと言われている。

残念ながら南方師団司令官の「戦死」で、我が日本陸軍南方軍の最高司令官の戦死は日本軍全体にとって大打撃だった。前線の島々での「戦い」で日本軍は圧倒的物量を誇るアメリカ海兵隊・陸軍の進撃に押されて、ガダルカナル・ニュージーランド等々の島々での陸戦で全滅させられた。

ラバウル島も然り。我々戦後派の者に当時の戦闘に使用された小型船舶を見せられたが、船は木製の漁船で、ナンダこれは！ こんな小さなボートでアメリカ軍の上陸艇に如何様にして「立ち向かえる？」。そのバカバカしさに呆れた。

ラバウル島の西側では、「第二次世界大戦博物館」と何とも大袈裟な「看板」の博物館に入った。その庭に超小型の「戦車？」らしき遺物が飾ってあった。ナンダ これは！ どの様に眺めてもこの塊は「戦車」とは言えん。その様な「オモチャ？」が武器・兵器か？ 他には錆びた鉄棒が見えた。

其れは日本陸軍の機関銃と記してあった。日本陸軍の偉い「参謀」達はアメリカ相手にその様な玩具的兵器で「戦え！」と指令？ イヤハヤ。本気で戦った我々の先輩達の哀れな最期に落涙しばし。最早この島で視るベキモノはナイ！ ワシ等夫婦は言葉少なに船に帰る。

翌日早々に船は環礁内をユックリ進み、我々乗船者たちはナニも云わず黙って島を出る乗船者の中に仏教徒の「和尚」が出て来て島方面に「合掌」しつつその坊主がイキナリ歌い始めた。

♪♪「さーらば ラバウルよー また来るまでは～

しばし 分かれの ナミダがにじむ～

恋し 懐かし あの空見れば～

くわえ タバコが～ ホローにがい～」♪♪

この歌を甲板にいた全ての乗船者達はしんみりと歌った。

環礁を抜けるまで延々と乗客全員で合唱を繰り返した。歌詞を知らなかった若者達も真面目に歌った。 終わり。

長期間のご愛読に感謝します。 三戸翁



6月中の梅雨入り・梅雨明けとなった今年の夏ですが、梅雨明けはその後の全国的な大雨続きで9月の見直しで平年並みに修正されそうです。

さて、国内の話題としては、コロナ禍の第7波の感染拡大、安部晋三元総理が参議院選挙応援中に銃撃された事件、ウクライナへのロシア侵攻とそれに関連して原油や食料の輸入が難しくなったの円安と物価高が大きな話題でしょう。

コロナの第7波の拡大は行動規制を緩めた途端の急拡大で、私も8月4日に4回目の接種を受けます。更には10月ごろには5回目も予定されそうです。このままでは、あと何回接種を受けることになるのでしょうかね？

更には、サル痘なるものが流行の兆しありとのことで、国内での発生が確認されたこともあって警戒が強まっています。

安部元総理への襲撃は銃規制の厳しい日本では考えられなかった事件であり、元総理は被弾後に搬送先の病院で死亡が確認されるという事態になってしまいました。

また、現行犯逮捕された容疑者が「旧 統一教会：世界基督教統一神霊協会(現 世界平和統一家庭連合：家庭連合)への恨みで統一教会幹部へ復讐を企てたが直接の襲撃は警備が厳しくて難しかったので諦め、影響力があって且つ統一教会のシンパと思われる安部元首相の銃撃におよんだ」と取り調べで述べていることが判り、統一教会の問題そのものだけでなく、政治家と宗教の関係へと問題が大きくなっています。

私らの認識では統一教会は過去の遺物であり、芸能人を広告塔にした合同結婚式で話題になったものの靈感商法や高額献金が問題になり、最近はジリ貧状態と思っていたが「世界平和統一家庭連合：家庭連合」と名前を変えて

現存していたとは驚きであったが、現実はむしろ超豪華な聖地建設中とのこともあって規模はジリ貧どころか拡大しているようだ。

聖地建設だけでなく運営維持費の大部分を日本人の献金が占めているとは更なる驚きであるが、韓国内では親族のもめ事で内紛状態が続いているのに日本人が貧者の一灯の如く献金しているとは驚きを通り越して信じ難い宗教心と脱帽するのみ。

ロシアによるウクライナ侵攻は、ロシアの目論見からは大きく遅れている様で両国の消耗戦を呈してきた。ウクライナ人の国防意識が高いのと NATO 諸国の援助が功を奏しているようで、反対にロシア軍の意気が上がるどころかむしろ低下がみられるとの観測がある。

とは言っても絶対的なロシアの軍事力を考えると前言しているように今後は無毛な消耗戦が続き、ウクライナ及び支援している NATO 諸国の支援疲れとロシアの根競べだけが残る。

仮にウクライナが降参してロシアが占領しても、統治が甘くいくとは思えない、ロシアに対する不信感と憎悪だけが残ると議するのは悲観的過ぎる予想だろうか、そうは思えないだけに和平なることを祈りたいと願っている。



# 安倍晋三元総理大臣を偲んで

ソロカーバ 8期 早川量道

ブラジル時間の7月8日午前1時15分に、日本の友人から「早川、大変だ。安倍元総理が奈良県で選挙応援演説中に、散弾銃2発で狙撃され、倒れた」と電話があり、彼とはあまり詳しく話ができず、別の日本の友人にWhatsAppで電話し、その後メール交換したのを転写した方が安倍晋三元総理の当日の様子がリアルに活写できると思いますので、まずそれを書きます。私の携帯からの日本との交換メールです。

私「安倍晋三元総理が散弾銃2発で銃撃され、心肺停止との事。心配致しております。」（午前1時31分）

友人「ハイ、今全てのテレビが中継しています。」（午前1時33分）

私「様子は如何ですか？ 一命は如何ですか？ 安倍晋三元総理が文協で私たちを15人位の単位で1組ずつに分け、写真を撮らせてくださいます、私は総理の隣に座り写真を撮らせていただきました事を思うと、胸が張り裂けそうです。犯行に及んだ犯人は、この平和な日本で何を意図して行動を起こしたのでしょうか？」（午前1時45分）

友人「容態の正式発表はまだありません。安倍氏はドクターヘリで奈良県立医大に運ばれ、治療を受けておられます。犯人の山上徹也41歳は、元海上自衛隊員だそうです。奈良県立医大病院で治療中です」（午前1時59分）

私「無事一命を取り留めるよう神様にお祈り、縋るだけです。奈良の県立医大病院の医療水準の高さを信じ、医師の方々に何とかお願いしますと藁にも縋る思いです。早川拜」（午前2時30分）

友人「奈良県立医大病院は、公立病院でレベルはかなり高い病院です。」（午前2時31分）「先ほど安倍氏が亡くなりました。67歳でした。合掌」（午前5時58分）

私「今私も携帯の YouTube で知りました。日本の明日からはどうなるのだろうと思うと同時に、犯行人の裏に他国の工作人員がないか考えるべきですね。早川より」（午前 6 時 14 分）

友人：「そうですね。全くその通りだと思います」（午前 6 時 15 分）となっております。

実妹と別の友人からも、安倍晋三元総理の逝去のメールがほとんど同時に WhatsApp に届いておりました。今、私の机の上に、ブラジルに来られた安倍晋三元総理が文協で講演後、安倍晋三元総理夫妻と一緒に写真撮影をして、総領事館を通じ文協から後日写真をいただいたのがあり、それを見ると当時の事を思い、本当に胸がつまり、涙が溢れる思いです。

撮影した写真を見ますと、「安倍総理、日系団体歓迎会、於：文協 2014 年 8 月 2 日」となっていて、安倍晋三、昭恵夫妻の他 15 名で写真を撮っております。

あの分刻みのスケジュールで、体力的にも大変な中、私たちのために何時間も撮影に気を配ってくださった気持ちを思うと、胸が締め付けられるような感情と思いとでいっぱいです。

「安倍さんはもういないんだ」と思うと、虚しさが入り交じり、仏法でよく言う「朝に紅顔ありて、夕に白骨となりぬ」「生者必滅」という諸行無常の言葉を思い出されますが、現在生かされて生きている私たちにとっては、前に向かって歩まなければならないと自分を励ます思いでいっぱいです。

どうか、安倍晋三元総理には天より日本の将来、国民をお守りください。ご遺族の昭恵夫人、ご尊母の幸子様、実弟の岸信夫防衛大臣を始め、ご親族の皆様には哀悼の意を表し、安倍晋三元総理のご冥福を心より祈ります。

2022 年 7 月 13 日



## ピンチ・ヒッター。青年隊員になる。私の金婚式。

サンパウロ 8期 長田譽歳

はじめの話は私が20歳と8ヶ月だった8月の最後の土曜日と日曜日に偶然降って湧いた物語です。時は昭和35年（1960年）の忘れなれない思い出の2日間の出来事です。

この時私は長野県木曾福島の御嶽山の麓の王滝村の愛知用水公団牧尾工事事務所の昼夜突貫のダム現場のモータープールでの建設機械の修理の仕事をしていました。このダム現場に来たのはその年の1月5日でした。

私はブラジルに行く為の資金稼ぎに昼夜突貫のこのダム現場に来て文字通り昼夜突貫で働き、休日は2週間に1日だけしか休みませんでしたので金も相当稼ぎました。この8月の最後の土曜日と日曜日の二日間、以前同室だった伊藤さんが仕事を休んで付き合ってくれないかと頼まれる。この伊藤さんは28歳で山形県出身、つい1週間前に結婚して私達の部屋から出て行きました。

彼の奥さんはこの長野県の女性で父母が営むこの現場の一杯飲み屋で、父母を手伝って働いていたので、その女性をものにしたので。

彼の仕事は私が働くモータープール内の部品提供係りと特殊工具の貸し出し係でしたので、私とは何時も話していた気の合った友人でした。

この伊藤さんの私への頼み事は少し変わっていました。伊藤さんの奥さんと以前同じ木曾福島の町の旅館で働いていた後輩の女性が、折り入って相談事が有ると言って尋ねて来られました。

伊藤さんの奥さんは友人の話聞き、何とか良い助言を与えねばと思案する。その伊藤さんの奥さんの友人の後輩の女性は3ヶ月前に木曾福島の同じ旅館で一緒に働いていた旅館を退職してから、国元の山梨の田舎で見合いをして結婚する為でした。その旅館を止める時には伊藤さんの奥さんは仲居として働き、友人の女性は女中として働いていました。

友人の女性は20歳で既に5年程の経験が有りました。

旅館を止める時には宿の女将は、もし見合いの相手が気に入らなければ、何時でも戻って来ても良いと言って送りだしてくれました。

そして今度戻る時は女中から仲居に昇格して給料も昇給すると言われたそうです。伊藤さんの奥さんもその時父親から牧尾ダムの工事現場の一杯飲み屋がすごく忙しいので手伝ってくれと頼まれ、その旅館を止めていました。2人一度に止められたけど、女将はこう云う事も有りうると言って諦めました。

彼女を待っていた故郷の武川村は山梨県の北のはずれの山間僻地の寒村で北に甲斐駒ヶ岳（2966）北西にアサヨ峰（2780）西に地蔵岳（2670）と鳳凰山（2840）と自然豊かな南アルプス自然公園が聳え立ち、景色は満点ですが人間が生活を営むにはあまりにも厳しい環境です。他の都会地を見て生活した彼女には此処で生活しなければならない何の利も見出せません。見合いをしても何の喜びも感動も有りませんでした。

見合いだけでもしてくれと頼まれた義理を果たしたので私の義務は果たされたと考え、丁寧にこの見合いを断り自由の身と成って帰って来て、今度は名古屋と言う大都会に出て自分の身一つで勝負して見ようと伊藤さんの奥さんに相談を持ち掛けました。伊藤さんの奥さんとしたら相談を持ち掛けられたと言うより、むしろ背中を押して知恵を付けて欲しいと考え、彼女に対し明日の土曜日と日曜日を付き合う事に急遽決めました。

自分等夫婦も結婚したばかりで土曜日、日曜日に何処か静かな場所をと考えました。伊藤さんの友人で木曾駒ヶ岳の中腹の山小屋で支配人をしている友人がいるので、其処に電話を入れると一部屋空きがあると言われる。自分等と彼女だけではバランスが取れないので、彼女に当て馬を探して四人で泊まろうと考えたようです。その彼女の当て馬に選ばれたのが何と私でした。伊藤さんとは同室の隣同士で長く寝ていたので私を選んだようです。伊藤さんも新婚ですので自分等の時間も必要ですので私に適当に調子を合わせて話してくれたらよいと言われる。私もこの現場に来て働き通しで働いたので、この辺で土日の連休を取っても良いと考え、泊り賃と食事と飲み物は伊藤さんが払ってくれると言うので引き受けました。

金曜日の昼飯時に伊藤さんが明日明後日頼むと念を押して、少し心配になって彼女は美人だと言われる。私は笑って大丈夫ですよ、もう明日明後日は休みを取ってありますからと言う。

目的の木曾駒ヶ岳の山小屋は駒ヶ岳登山の為の泊り小屋では有りますが、4人で泊ってキャンプする若者にも利用されます。直ぐ目の前に御嶽山がどっさり座り、遙か前方に北アルプスの山々の峰々が光り、それは非常に絶景地です。富士山は駒ヶ岳の真裏になりますので見えません。

翌朝一番で伊藤さんが私を呼びに来て二人してバス停留所で話していると伊藤さんの奥さんと山梨の彼女が揃って此方に向かって来る。伊藤さんの奥さんは数回見ているので知っていました。その伊藤さんの奥さんより顔半分ほど上背が有りスラットしている。近くに来てその娘を見て驚く。

成る程美人で、スマートで知的な容貌で、お客を接待するサービス業に向いていると思われる。この娘は武川村の片田舎で一生を終える女ではないと思われる。

バスに乗って木曾福島駅まで行き、中央線名古屋行きに乗って一駅次の上松駅で下りる。上松駅から駒ヶ岳の中腹までバスに乗って山小屋に到着する。普通の山小屋は中央に通路があって両側に頭を向けて簡単な仕切りがあって横一列に寝るのが普通です。其処の山小屋は宿屋を兼ねているので各部屋に仕切って有りました。四つの敷布団が並べられるスペースがあるので、真ん中に伊藤さん夫婦が寝て私が伊藤さんの隣で、奥さんの隣がその娘でした。

山小屋に着いた午前中は二人の女性でこれからの彼女の進路について話し合い、私と伊藤さんは近くを散歩しました。伊藤さんとは何回も寝物語で話を聞いていたので一応彼の事は知っていました。今後は今の飲み屋が順調に行っている間は続け、自分もモータープールで働き、ダム工事が終わったら何処か固定した場所に食堂兼飲み屋を開けるらしいと言われる。

昼食の後は伊藤さん夫婦と少し離れた場所で私と彼女で取り留めの無い話をしました。

彼女の生まれ育った場所は山梨県の北の端の武川村だと言われる。

5~6年前の昭和29年か30年に武川村の大小の武川の大氾濫の水害があり、私の兄も県の連合青年会で数日の勤労奉仕に行かれたのを良く覚えていたので、その話を最初にしました。

彼女の家では家屋の被害は免れたけど田畑が流されたと言われる。

武川村は山梨県の北部に位置してその隣が白州村で白州村が長野県との県境です。村内を中央線が抜けていますが、村の産業は農業と林業しか有りません。終戦後一時期林業が栄え、その時期に山の殆どは裸山に成ってしまいました。武川村には大武川(全長180キロメートル)、小武川(全長120キロメートル)、の大きな二つの河が有ります。最初に記しました様に村の西北部には南アルプスの峰々が横たわる山岳地帯で、裸山に降った大雨は土石流となって大被害をもたらしました。

当時は現在のように地方自治体の補助は無くまったくの泣き寝入りで、運が悪かったと諦めざるを得なかった様です。

伊藤さんの話ですと彼の奥さんは名古屋市の地理も少し知っているのも、名古屋市の旅館街の事も丁寧に話された様です。まず、最初に名古屋に着いたら名古屋駅の裏口は大きな歓楽街で、旅館も沢山あるけどその殆どが連れ込み宿なので駅の表口に出ないといけないと強く言われる。

駅前の100メートル道路を横切り、暫く行くと老舗の旅館が数軒有るので其処で最初当たったらよいと言われる。

今まで働いた旅館ではお女中でなく仲居だったと言うように教える。もうこの1960年頃は景気が上向きに成ってきたので決して自分を安売りしてはいけないと教える。そして木曾福島の働いた旅館の住所と電話番号と女将の名前を言ったら良いと教える。二十歳の娘だけど何か一人前の仲居として働いていけそうな気がする。

正面に映し出されるどっしりした御嶽山の様に腰を据えてこれから働いて行けそうな気がする。彼女もこの木曾駒ヶ岳に来て多くの事を教えられ気持ちが開けたようだと言われる。



写真は愛知用水公団牧尾ダム築堤工事の様です。

1961年の厳寒時で、排水口の流し台は氷で覆われている。

この地は長野県の南部だが、標高が高いので猛烈に寒い。

私もこの娘の試馬として十分に尽くしたと思われるので、伊藤さんからも伊藤さんの奥さんからも当人の娘さんからも感謝されたようです。

私もこのダム現場で8ヶ月働き資金も大分蓄えたので、もう半年程重機の整備技術を学びブラジルの大地に向かって進もうと思う。此処に来た目的は既に半ば達成されたと考える。

あの木曾駒ヶ岳の山小屋に泊ったあの日からもうすぐ63年の歳月がこようとしています。武川村生まれの娘も82歳に成った筈です。彼女は幸運に恵まれ旅館の女将に成られたと私は思っています。女は持って生まれた容姿

容貌で出世も可能ですし学歴も不要です。昔は女の身一つで一国の殿様の母親に成った例が沢山あります。きっと今は愛知県の海に見える蒲郡の坂の高台にひっそりと余生を安楽に送っていることだろうと思います。

20歳の娘さんの再出発を見て私も少し気持ちを引き締め、重機の修理作業に精出す。ダム工事は既に最終段階に入ったけど、働いている建設機械が古くなり何時も壊れるので我々の修理の仕事量は変わらない。一年の予定で来たけれど、此処での重機の故障の整備も殆ど覚えたので、仕事も面白く給料も余り減らず、会社からも頼りにされていたので更に一年近く愛知用水公団牧尾ダムで働きました。

私がこの愛知用水公団牧尾ダム現場に入った時、この殺伐としたダム現場に相応しからぬ6名の若い重機の青年オペレーターがいました。話を聞くと宮崎県開発青年隊から途中横滑りで西松建設の社員オペレーターとして採用されたと聞きました。その若い青年は随分紳士でこんなダム現場には相応しからぬもったいない青年だと感じました。その一年半の間に彼等と御嶽山登山もしました。

彼らが入社する前はこのダム現場が長野県開発青年隊のキャンプ基地だったと聞きました。長野県開発青年隊の終了時には西松建設としたら殆どの青年を機械オペレーターとして入社して欲しかったとのことでしたが一人も入社しなかったとの事でした。

その中の一人が6期の渡辺尊人氏でした。話によると渡辺尊人氏がこんな所に入社するなと煽動したようです。そして自分はさっさとブラジルに行ってしまうました。私は最初からブラジル行きの資金稼ぎだと言って入社していました。ですから最後に榊原所長に挨拶に行くと、所長も私もバンコックに発電所建設に近近出張する事になると言って握手しました。

## 青年隊員になる

一年半少しそのダム現場で働き、ダム現場から帰って来て最初にした仕事は西松建設の会社の健康保険を利用してブラジルに行くので盲腸手術をする。今考えると私の家系は盲腸の有る家系ではないので必要なかったと考える。そして病院を退院する前に、建設省総合計画課の長沢亮太氏に渡航要請の手紙を書き、投函する。3日後には総合計画課の小川英雄氏から速達の返信が届く。

速達ハガキには携帯品を調達して至急山梨県富士吉田市上吉田公会堂に集合せよと言われる。この集合場所を見て凄く驚く。上吉田公会堂は頭の中にある地理で何回か通過した場所でした。

備品準備と言っても旅から帰ってきたばかりで買い物を整えるのは飯盒(はんごう)ぐらいで、その日に終了して、翌日の昼前に上吉田公会堂に到着する。他の隊員も3日前に集合したばかりでざわざわしている。

何と幸運だったと喜ぶ。それに沼津中央隊で同室だった山崎壮六君も来て居るではないですか。この沼津中央隊の一般隊員は我々一期のみで翌年は幹部隊員に代わりました。

富士吉田の総合訓練には8期生として参加した隊員数は70人程の大世帯でしたが、1962年4月30日出航のアルゼンチナ丸には33名しか乗船しませんでした。他の半数以上の方は長沢師から首になったり、自己辞退して渡航しませんでした。

9期生でも10期生でも出航前の総合訓練で相当数の青年が集ったようですが、いざ出航となるとどちらも半数以下に減ったようです。

## 私の金婚式

今回の8期生の集りは私の遅れ遅れになった金婚式と我々8期生の60年ブラジル移民記念祭を兼ねた集まりでしたので果たして皆が賛同してくれるかどうか疑問でした。前回8期生が集ったのは10年前の8期生の50周年のカナネイヤの集まりでしたので、丁度10年振りに成ります。

果たして声をかけて賛同して集ってくれるか心配でした。私の2階のサロンで遅れた金婚式と言う事で声を掛けました。すると電話を掛けた全員が一発で出席すると言うのではないですか私は感激してしまいました。

私の家はメトロ・ジャバクアラ駅から2キロメートル離れているので、駅まで私が迎えに行く約束をしました。2人は車で来るので、5人とはメトロの駅で待ち合わせて、一度の迎え行きで済みました。

次ページからは当日の4枚の写真です。

集った8人の8期生(79歳から84歳です)



左から、後列は長田譽歳・志方進・早川量道・北田隆雄・森安夫、  
前列は山木源吉・野末郁夫・小山徳



娘たちが準備してくれた移住60周年の風船

## 10年ぶりの和やかな集いでした



これからの10年に向けて乾杯 AGORA VAI !

ビールやワインと共においしい日本酒もありました。 ◆



ケーキ切り  
です。  
次回は何年  
後でしょう  
か。



左、北田隆雄さんと  
森安夫・美智子夫妻  
次回からの夫婦での  
参加のお手本でし  
た。



山木源吉さんと野末郁夫さん  
話は尽きませんでした。



美味しかった刺身と握り寿司を取る  
早川量道さん。焼肉もありました。



【昔の写真】 8期生パラナ訓練所終了式記念写真 1963年5月  
長田夫妻金婚祝いの日(2022年7月10日)に祝賀会場でコピー撮影した  
もので、元の写真はこの倍の大きさでした。短歌は8期早川量通さん詠



写真にある当日の関係者を含め、全隊員の名前を記します。(敬称略)

最前列は左から、坂本円二・野末郁夫・河野保則・山浅不二夫・田布尾  
隆雄・赤坂耕二・牧晃一郎・小山徳、右端は隊員ではない訪問者。

2列目で座っているのは、岩淵勝夫・長田譽歳・北田隆雄・井上ゼルバ  
ジオ忠志(コチア産組会長)・久万浩(訓練所長)・早川量道・山木源吉。

立っているのは浜埜英輝・高野泰久・松岡由凱・森安夫・後藤良夫・  
田中正雄・小島忠雄・佐藤賢志・大岡弘・佐藤揚明・谷口道夫・丸谷  
良守・勝山巖・近江岸昌三・吉岡正貫・内島哲男・志方進・吉田欣司・  
山下功・高木敏夫・進藤次夫(1期、隊長)・年見昌紹(7期、訓練所の  
事務所責任者)

## 【同日の別写真】

8期生33名と参列者が鮮明に写っている写真が(編集者のコンピューターに)ありましたので掲載します。ただし、残念ながら進藤次夫氏はここには写っていません。

個人的感想：みんな若かったですね。今でも気持ちだけは若いです。



### 【編集備考】

前ページの写真の上部にある説明文の3行目に「パラナ州セラドーラドス」とありますが、正しくはセラ・ドス・ドウラードス(Serra dos Dourados)です。実際の発音では「セラ」は「セーハ」と言っています。

なお、インターネットのグーグルマップにはセーハ・ドス・ドウラードスと表記してあります。



## 【編集委員メールアドレス、ご連絡用電話番号】

そがよしなり

曾我義成 ysoga@rimobloco.com.br 事務所(Escritório) 11-4057-2377  
携帯(Tel. Celular) 11-97120-0863

ぼんこはらくにひこ

盆子原国彦 kbonkohara@live.jp

おさだたかとし

長田譽歳 takatoshi.osada@gmail.com 自宅(Residência) 11-5563-6929

こやまのぼる

小山徳 tokukoyamano@gmail.com

しかたすすむ

志方進 ssshikata@gmail.com 自宅(Residência) 15-3279-1521

皆様ふるってご投稿ください。ご投稿を受信しましたら、着信通知を発信しておりますが、ご投稿の到着を確認してください。  
ご意見、ご提案、お叱りなどもお寄せください。

【名簿訂正】住所や電話番号などを変更された場合は会長または編集委員へお知らせくださるようお願いいたします。

【お願い、お知らせ】次号は10月上旬に発行予定です。

ご投稿は9月20日(火)までをお願い致します。

## 【編集後記】

多くのご投稿をありがとうございました。

今年は8期生が60周年(5月11日着伯)でした。

来年は9期生の60周年(8月15日着伯)です。

両者とも企画があれば教えてください。個人としての投稿も大歓迎です。

相変わらずのコロナ禍ですが、皆様お元気でお過ごしください。

